

コンビニ時短問題の経緯と問題点

松本実敏

セブンイレブン東大阪南上小阪店オーナー

2019年2月、私が自分と家族と従業員の過労死防止のために、時短を執行してからもう2年が過ぎようとしています。この間、いろんな事がありすぎてもう10年も経ってしまったような気がしています。さて、その間どのような事があったのかを、簡単な時系列をもって説明していきます。

1 時系列

2019年

2月1日、時短開始、すぐに契約解除を通知される。

2月7日セブン本部大阪地区事務所で面談、契約解除と1700万円の違約金を告げられる。

2月19日、ネットニュース、弁護士ドットコムで報じられる。

2月20日、各メディアで報じられ、一躍コンビニ加盟店の疲弊状況が世の中に浸透し始める。以降、応援、励まし、賛同の電話、手紙、訪店が全国のオーナーさんたちから届くようになる。私自身としては、自分だけの問題ではないことを、認識し始める。

3月11日、世論のセブンイレブン・ジャパンに対しての批判が高まるにつれて、私への契約解除と違約金1700万円を撤回する。

6月、セブン本部、私の店に対しての近隣へのドミナントを仕掛ける、セブンの悪評を聞いていた全ての地主に断られ、断念する。

7月、セブン本部、調査会社に依頼して、店の前のマンションの一室を借り、一日中ビデオを回し、証拠集めをしはじめる。その頃から、異常なクレーマーが急激に増加する。それによって私の息子である店長が、精神的に病んでしまい、店長を辞めざるを得なくなる。

8月半ば、店長の離脱によりさらに苦しくなった人材で、店を回すために、日曜日の休日を本部に訴える。メディアによって報道される。

8月27日、以前から再三社長との面談をお願いしていたが、一向に聞き入れてもらえずにいたの

が、やっとセブン本部役員の訪店、話し合いがもたれる、何の解決策も持ってこずに、日曜休日は許可出来ないこと、クレームが多いことだけ告げられる。

従業員がそろった事もあり、日曜日の休日は見送る、その代わり、クレームが多いという件をきちんと精査するようにお願いし、ほとんどの加盟店の疲弊の元である元日ぐらいは休業出来る様にとお願いする、回答がなければ、100店単位で休業ストもあり得る事を告げる。持ち帰って、回答する事を約束してもらう。

10月28日、再三再四回答をお願いしても、回答はなかったのので、2020年元日は休業することを通達し各メディアに流す。たくさんの方のオーナーさんたちも賛同をし、みんなで元日のストを決意する。

12月20日、解除通告を出され、有無を言わず解除であり、30日に発注とレジシステムをストップすると告げられる。2020年元日のストの回避とスト決行を待っていたオーナーたちへの脅しのためであると想像できる。それによって元日休業のストは、ほとんどのオーナーが断念することになる。

12月27日 弁護士とともに大阪地区事務所にての面談する、本部側は私への批判と解除受け入りの要求ばかりで、面談は物別れに終わる。

2020年

1月6日 仮処分提訴、仮処分は双方却下

1月14日 日本訴訟の提訴、本訴は現在、係争中。
仮処分では、ほとんどこちらの証拠は出せなかったのので、本部側の言い分ばかりが通ってしまっているので、本訴では、しっかりと時間をかけて、こちら側の証拠を出していき、本部側の言い分を、一つ一つ、潰して行くようになると思います。

2 時短を始めた事によって、わかってきたこと

今回の一連の流れで、私は学んだことがたくさ

んあります。

- (1) まず最初に、時短をしたことがメディアに報じられる事によって、たくさんの応援や、励みや、同調のメッセージをいただくようになり、コンビニオーナーの中には、同じように苦しめられていて、全く声も上げられずに泣き寝入りをしている人が、なんと多いことかと言うこと。
- (2) この時短の問題は、私個人の問題ではなく、日本全国のコンビニの問題、いやコンビニだけで無く日本の経済のあり方の問題であること。
- (3) このまま放っておくともっと過労死者や自殺者が増えてくるであろうと想像できること。
- (4) この問題を解決する方法は、強い正義感の元に権力と戦う決意をし、各オーナー自身が勇気を持って声を上げ、団結をして戦うこと。
- (5) 世の中にはあまりにも嘘がはびこりすぎていること。権力者はその嘘が暴かれても、開き直って無かったことにしてしまえると言うこと。
- (6) このコンビニの問題は氷山の一角で、同じような問題が日本中で、いや世界中で起こっていると言うことで、民主主義、資本主義の終わりの始まりが起こってきていると言うこと。
- (7) あらゆるところで、権力によって、人の命がおろそかにされていること。等々です。

3 セブン本部側は、なぜ時短を認めたくはないのか

セブン本部側はこの問題がなんとか世の中に知れ渡る前に、問題が無かったことにしようと、いろいろと脅したりなだめたり、改善策を伝えてきましたが、うるさい私の店だけ助けてやるという、加盟店全体の改善にはならないことや、一時しのぎの改善策であったために、受け入れる事は出来ないことを伝え、本当の改善を心がけない限り、戦い続ける事を訴えました。

公正取引委員会が改善勧告を出そうが、コンビニ法が制定されたとしても、各オーナーが勇気を出して声を上げて、下からつついて行かない限り、根本的な解決にはならないと私は思っています。

なぜなら、コンビニ本部側は、今まで吸い続けてきた甘い汁を簡単に手放すはずはないからで

す。どんな手を使ってでも、阻止しようとして来ます。それを防ぐ資金はいくらでもあるのです。立法府の政府にも、配る資金はいくらでもあるのです。

また仮に法律が制定されたとしても、見えないところで圧力をかけてきて、加盟店が好きでしていると言うように仕向けていくでしょう。お金では動かされない、強固な正義感が無い限り解決の見込みはありません。

もし、全加盟店が1時～6時まで時短をしたとしたら、1晩で1億円のチャージがなくなると言われています。それが時短を認めたくないと言う所以です。けれど1日で約25億のチャージが入ってくることを考えれば少ないものだ。甘い汁は少しでも返したくないと言う吝嗇な考えがあるのでしょうか。

つまり24時間365日営業の問題も働き方改革の問題も、基本的にはほとんど何も変わっていないと言うのが現状だと思っています。

4 全世界で理不尽な圧力に対して、声が上がり始めています

世間ではいろんなところで、権力者の理不尽な行いに対して、声が上がってきています。

香港では、青年たちが理不尽な中国と親中派の香港政府に対して、自分たちの未来を守るために声を上げています、スウェーデンの環境活動家のグretaさんも、経済重視で環境の事を全く考えない、各国の首脳に対しても未来の地球を守るために声を上げています。アメリカの黒人差別の問題でも、「人間の命に重さに違いなどない」と言うことで、声が上がっています。タイでも、国民の事など全く考えないで、王室の栄耀栄華だけを考えている、タイ王朝への批判の聲が高まっています。

日本でも、森友公文書改ざんの問題、桜を見る会、検察庁長官の定年延長の問題、木村菜さんの問題、学術会議の問題など、いろんなところで、声が上がるようになってきました。

今までわかりにくかったことが、わかるようになってきました。これらの全ての問題は、自分たちの繁栄のためなら、下のものの命などどうなっても良いという自己愛から来ているのでしょうか。

5 人間が歴史から学ばなければならない

歴史を見てもわかるように、あれだけ栄耀栄華にふけたローマ帝国でも、秦王朝でも、江戸幕府でも、豊田商事も、武富士も、自己愛の塊の国、団体、企業、などは全て淘汰されてきていることに、人間は学ばなければならない、目を背けている限り、同じような憂き目を見るのは、火を見るよりも明かです。なんとか淘汰されないように、我々が声を上げて変えていかなければなりません。

権力者はその権力にあぐらをかいてしまっていて、個人の器以上のお金が入って来る事によって、正常な考えが出来なくなってしまっているのではないのでしょうか。

政治家も企業のトップも、器を大きくさせてくれるような苦勞を全く知らずに、親の七光りだけで、権力の座についているんだとしたら、人を引っ張っていけるだけの器になるはずがありません。今はこのコロナの出現によって、その器の大小ははっきりと現れてくるようになりました。

いまの権力者には、私たちが失望させるようなことばかりがあるように思います。そう思わざるを得ないような、不可解な言動があまりにも多すぎると思っています。

6 世の中にはあまりにも嘘がはびこり過ぎている

政治家の嘘、官僚の嘘、企業トップの嘘、学者の嘘、警察の嘘、教育家の嘘、報道陣の嘘、芸能人の嘘、一般人の嘘、この世は嘘で成り立っていると言っても過言ではないぐらい、嘘がはびこっています。

たわいのない嘘ならまだ良いですが、人の命まで奪ってしまう嘘はあってはならないことである。特に政治家、官僚の嘘では、森友の改ざんの問題でもあるように、何人かの自殺者を出しているぐらいである。権力者を守るために、人の命を犠牲にしてもいいと言うことはあり得ないことである。

「人の命の尊さに違いは無い」と言うことです。一人の地位を守るために、何人かの命が奪われるなんてことはあってはならないことです。この嘘の問題も「自分さえよければ他人はどうなっても良い」という自己愛が原因なのでしょう。

7 なぜ嘘はなくなるのか

政治家も、官僚も、大企業のトップも、みんな同じ、自分たちのためならば、下のものの命ですら、なんとも思っていないような傾向があると思ってきました。

嘘をついても権力のあるものが、ないものに対して虐げてしまっている、嘘を嘘としても権力でそれを押し通してきてしまっている。一生懸命正直に頑張っている人が、嘘で固められた権力に縛られて良いはずがありません。「正直者が馬鹿を見る」って事が絶対にあってはならないと思います。

今話題のテレビドラマ「半沢直樹」のような中では、嘘がすぐにばれて、正義が勝って気持ち良いですよ。現実の世の中ではそうは行きません。嘘がばれるのには時間がかかります、あまりにも時間がかかると、嘘はばれないのではと、勘違いするものも出てきます。なので、ばれなければ嘘をついてもいい、できるだけうまく嘘をついて、あくどいことをしてもばれなければ良いと言う考えに至ってしまうのでしょうか、けれどもどんなにうまく嘘をついたつもりでも、嘘は必ずばれるものです。しかも最近ではばれるのが早くなってきています。

私の父が生前「おてんと様をまっとうに見られないような生き方をするな」とよく言っていました、今になってその意味がわかるような気がします。私は父に、「まっとうにおてんと様を見られるよ」と誇りを持っていえる様な生き方をしていきたいと思っています。

8 我々の行動が世の中を変えることが出来る

これらの問題を変えていくためには、私は一人一人が、他人の事を少しでも良いから考えられるようになり、自分のためと誰かのために声を上げていけるような運動を起こすことだと思っています。

理不尽な事に対して、自分のためにも他人のためにも声を出す事が大切だと思っています。世の中には、権力によって苦しめられている人がたくさんいます。それによって、過勞死に追い込まれたり、自殺に追い込まれたりする人があまりにもたくさんいて、「正直者が馬鹿を見る」という

状況が今の世の中には蔓延しています。

金や権力のあるものが、弱いものを食い物にして、我が物顔でのさばっていると言うことが、この世の中には普通に起こっています。そんなときに、勇気を持って声を上げて行きましょう。それが少しづつでも世の中を変えていける、たったひとつの方法だと思っています。

今回、コンビニの問題を提起することが出来たことによって、今まで感じたことのない充実感と使命感に満ちあふれています。セブン本部との戦いの中で、いろいろ理不尽な事もされて来ましたが、そのことによって私が学べたことは、私の人生においてかけがえのないものになりつつありま

す。いろんな経験をさせてもらったことによって、今までと見える世界が違って来たような気がします。逆にここまで私をおとしめてくれたことに、感謝したいぐらいです。

ただし裁判の席では容赦はしません、この裁判は私だけの問題ではないからです。声を出せずに、ひたすらに命を削りながら、過労死とも戦いながら、正直に頑張っているオーナーさんたちのためにも、負けるわけにはいきません。

正直者が馬鹿を見ないように、本当に本部と加盟店が、WIN WINの立場で経営が出来る様になるまで、私は声を上げ続けて行きたいと思っています。